

明石工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	日本事情 I (留学生科目)
科目基礎情報					
科目番号	0021		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気情報工学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	担当教員がプリントを作成し配布する。(参考教材) 国際交流基金編『まるごと 日本のことばと文化 中級 1 B1』(三修社)				
担当教員	久保田 育美				
到達目標					
1. 日本の文化について知り、理解するとともに、自文化との文化と関連付けてその違いや関係性に気付いたり、推測したりできる。 2. 日本または自国の文化や言語行動に関するいろいろな話題について、社会的・文化的な共通点や相違点にもふれながら、ある程度の長さでわかりやすく話したり書いたりできる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	日本の文化に関して、授業で提示した以上の知識や情報を持っている。		日本の文化に関して、授業で提示した十分な知識や情報を持っている。		日本の文化に関して、授業で提示した基本的な知識や情報を持っている。
評価項目2	自文化との違いや関係性に気付いたり推測したりしたことを、それぞれの背景や根拠に基づいて説明できる。		自文化との違いや関係性に気付いたり推測したりしたことが説明できる。		自文化との違いや関係性を指摘することができない。
評価項目3	日本または自国の文化や言語行動に関する話題について、既習日本語を効果的に使って表現したり、論理的な文章を書いたりできる。		日本または自国の文化や言語行動に関する話題について、簡単な方法で語句をつないで表現したり、つながりのある文章を書いたりできる。		日本または自国の文化や言語行動に関する話題について、文にすることができず、単語レベルでしか表現できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	実際のコミュニケーション場面において、ことばを使う私たちは言語行動や文化の違いに気付くことがある。本授業では、日本と自国の言語行動や文化の違いについて考え、理解を深めることを目標とする。また、毎時間のテーマに関連し、自分や自国のことについて日本語で話したり書いたりする。				
授業の進め方・方法	配布プリントを使用して授業を進める。受講生は、授業を通して得られた気付きを、授業中に発言、またはプリントに母語で記述する。日本語で話す・書く課題については、受講生が準備し、それに教師がチェックを入れたものを受講生が自ら修正し、成果物として発表または提出する。				
注意点	日本と自国の文化への理解を深め、考えられるようになることを期待する。また、本授業は日本語で話す・書くことを課題とするため、これまで学んできた語彙や文型、表現を用いて産出練習をする機会とすること。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	授業の目標および内容を把握する。	
		2週	自己紹介で何を話す?	日本人が自己紹介で一般的によく話す話題について知り、自国との違いに気付く。また、それぞれの国でなぜその話題を扱う傾向にあるかを考えることができる。	
		3週	自己紹介で何を話す?	日本人が自己紹介でよく話題にする内容を取り入れながら、ある程度詳しく自己紹介をすることができる。	
		4週	問い合わせメールを書く	これまでの学校生活でやりとりしたメールを見て、日本人がメールを書く際にどのような言葉遣いや表現を用いるかについて考えることができる。	
		5週	問い合わせメールを書く	市主催のイベントに参加することを想定し、問い合わせメールを書くことができる。	
		6週	私の好きな音楽	日本のポスターやチラシを見て、それらに用いられている言葉や内容の特徴に気づく。さまざまな日本の音楽に触れる。	
		7週	私の好きな音楽	自分の好きな音楽について、好きな理由や魅力が説明できる。	
		8週	振り返り		
	4thQ	9週	さまざまなスポーツ	世界のさまざまな武道や格闘技について理解できる。	
		10週	さまざまなスポーツ	自国のスポーツについて、特徴ややり方などをある程度詳しく説明できる。	
		11週	お気に入りの道具	スマートフォンをはじめ、生活を便利にする道具に対して自分の意見を持つことができる。	
		12週	お気に入りの道具	自分が便利だと思うものの機能や使い方について詳しく説明できる。	
		13週	祭りの今と昔	日本の祭りや行事について、昔と現在の違いに気づき、社会の変化について理解する。	
		14週	祭りの今と昔	自分のふるさとの伝統的な祭りまたは行事について、日本の祭りや行事との共通点や違いにふれながら、ある程度詳しく紹介することができる。	
		15週	これまでの出来事	勉強、学校行事、友だちとの出来事から、これまで自分にどんなことがあったかについて話すことができる。	

		16週	振り返り	授業を通して新たに発見したこと、考えが変わったこと、さらには自分の日本語の能力と技能がどうなったかについて説明できる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	発表・制作作品	課題提出	授業への取り組み	ポートフォリオ	合計	
総合評価割合	60	20	10	10	100	
基礎的能力	30	20	0	0	50	
専門的能力	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	30	0	10	10	50	